

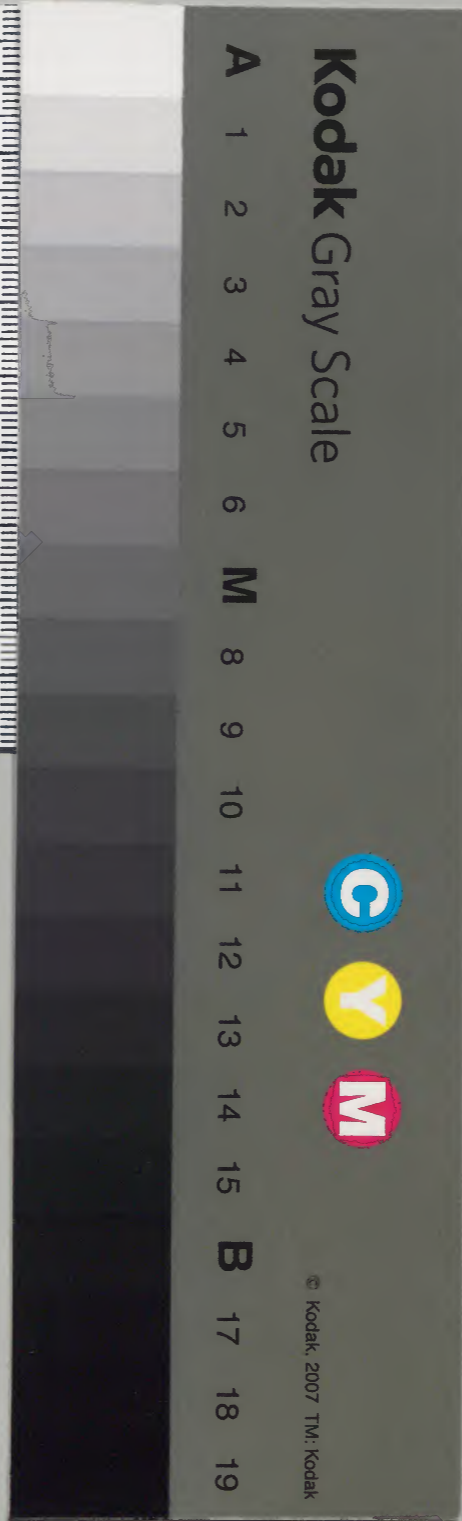
初學訓

四

太政官文庫			
		一	和
		一	書
		六	
		九	
五	九	五	
冊	函	號	門

内閣文庫			
		一	和
		一	書
		六	
		九	
九	五	五	類
函	冊	號	

内閣文庫		
番號	和	11695
冊數		5 (4)
函號		190 361



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

初学訓巻之四

貝原篤信著

名利の二ハ人乃好之而たりされども打は
るをてこのうは道にそしきさうして身おとさ
しむとかり身ふ才学あり徳行ありハもの
身の愛たりされとみくつら名とじさかり
人ナリけりきんさそこのひくうはけり
おちのる美紙うしるいふつううけりてう
めく名とさうくちし人い只は紙はけり

初学訓四

るに誠なるあれい名はもつれされものを
法くもあらあり名い実の實と古人も
とり

利とい財実利禄ちりつしんご家業と
よくはあらゆくの利い求むれしてそのつら
来らるゆさすの求むるす利と求むれい
必害ありおとらるる一実とつらぬいて名
と利いぬ好むいひけらありつちしん
又学とこのとて義理とこのまらぬ俗

と云をいひ四書五經と書ふよん其を
義と通し程朱の学はともはとも義理と
ぬまらるは俗学なりつちしん

は士より四民あり士農工商也四民皆義理
を修するのみ一ありて利をぬ求むるつら各
かゝりの義理とゆふとい即人倫の道を
修ふを云是四民ともいふ利害の世は
つらつらなるもつら思四民各つられり
士い主と主人より下士といふつらと云いふ

るに徹したるはむとせられざるの
 法より来るあり名に實の實と古人も
 不肖言四
 利との財實利祿ちりつしんて家業と
 なくはゆるゆるの利の求むるをのつら
 来らざるはさすの求むるす利と求むる
 必害ありおとらるるに實とつらむるを名
 と利と必好むといひけりありのやせり
 文學とこのことと義理とこのまじり必俗

と云ふこといひ四書五經とあるよらん其を
 義と通し程朱の学はともふとも義理と
 好まざるは俗学なりの中しり
 塵土より四民あり士農工商也四民皆義理
 を修するのみ一ありて利害は求むるごとく各
 かたかり義理と修むる即ち備乃道を
 修むを云是四民ともいへり利害は世に
 けりつるをちかり是四民各々のなり
 士は王と大人より下士にけりつるを云ふ

初學訓四

一士族と云へば本名の農工商とわかれ先
中なるいへんはなり民の中なるいへん
とありは此と凡土地と多くききり人
い我の身いりふ私を以て儉物ありて奢と
私欲なく民と中なるを以て中なるとい
其家長久く財をみらして身の利害
いりたりといふはなりはなる賢君身
は儉物とわかれはなりはなりは海に
さりとありはなりは民の身と物とゆは

給へも後りの倉よきなりなりて来り
ては錢をいりてされりなりや又云卿より
下けは士庶人よきなりは身とわかれ
君よよくけりはなりは君の中なるいと得財
禄とをのりて利害はなりはなりてをわ
けり其の中にありきりはなりはなりは
官職とわかれなりは利害は求むなりは
なりはなりはなりはなりはなりはなり
なりはなりはなりはなりはなりはなりは

初學訓五

くろ人の民をわづねるめくせ志しむる
次允道よ志ありて義と好む公直ふりあ
情うくいつまりたてけくをわづねるに
ちり

農ハ田にけくる民也是人と申よりあされ
の四民乃本ちり淳ありゆはぬくまらふ
けくいつはあきく多く耕作とせぬつと
先しじく農人の天乃何よ志くういて春
夏秋冬乃けくちせくくくくくく又地

利よよりて其上よ軍しき五穀をくく種
田畠のちりついで其上儉紡ちて財と
妾こころり用され財多くしてあかちて貢とを
へ父母妻子と申ちりよとと申ちり又
身とけくし法度とせくさく公役り
ねくくく私用とせぬし貢とをくく
おさじれいはくくくくくく父母のく種
へかく其くも亦安樂ちり是良農也
くくくの良農あれい美民のく存ちり

工の器物とけり法職人たり各其職を
付く器物を祈んころに之れを兼
ありされい本あり人多く利を得る事
多し是良工也
商の利とるるを多しきありは
よりかき人とありされい人衆と
よりとるものありけりて其の
其のありもの多くよりありあり
くこと利とるる多し富を得る

古今

事やとて是良賈なり
抑も農工商の三民の君よりは
義理とすく利害を求むるは天道
うじたり事と妨むるは一旦の利
を得ること必ず天のつらめ人
て後のつらめいよあり
眼前の利をのりてはのりとい
ふは不苦悩なりて利とてい

工の器物とけり法職人たり各其職を
付て器物を祈んころにけり衆庶
ありされい求めり人多く利を得る幸
多し是良工也

商の利とてけりおそ多くしきりけりけ
りけり人とおさじりされり人衆とて
けりおそものけりけりけりけりけ
其おそものけりけりけりけりけ
くくきり利とてけりけりけりけり

事やとて是良賈たり

抑も農工商の三民の君はけりけり録
かきけりけり利をけりけりけり
義理とてけり利をけりけりけり
けりけり人幸とけりけりけりけり
と得るけりけりけりけりけりけり
て後のけりけりけりけりけりけり
眼前の利をのけりけりけりけりけり
とてけりけりけりけりけりけりけり

むれの財とすしちよとれりてしけさの家
 と申り身をけりちん天乃であ人のホ
 くののさのさくおろろるんあさや
 穢い天乃道也これと穢い人乃道
 たり四時終りまは百物する言よささ
 一悪くしりさりいと見天道のはこも
 いあし今多かりと人乃道これと別
 てはあて穢くするふありあはもつて
 人乃公いまて穢くす穢あこれの物

たり君父によく侍るいさる言とゆいて
 も穢るけさいあはるす皆しつるなり是
 を物なりと云はあて言は終りもあ
 るけさいさるうあさじ人となさじく
 いさるおしりあさじといつらるち
 ぬるあさのみ穢と幸とす孔子の言
 忠信とわさるもけさ也た終り穢のを
 教といわさる言あさじいよは山に
 せそれいあてはあまにた人

うまひてあやうに事いのかあらはを
 ち一あそ化よをばうんさんしとらに念
 を入くおろそろをうんさんさん又其
 るよりおのたるあふ茶のるをば一を
 ておのたる事とるうん一はけしめ
 はおのたる法一はされいりあの
 事は一あらひつ一はされいりあの
 けしめいりあらひつ一はされいりあの
 つまよされいりあらひつ一はされいりあの

命なりと安樂なら何れ必けしり
 しめいぬのまこといあく後悔をいれ
 事は悔るうんさんとあは悔るさ
 ハ教よあり教い古の聖賢のふはたり
 若是より行つる是のふはたり
 根本たり人生の必つとあは悔るさ
 白樂天うたうし福と福といはし
 一はさるふありといり

勤ハ美るものあらして行つるあは悔るさ

おこりてゆるむもすまらぬ備の道も勤ま
 わされハ約ハ作と申につまそそ忠孝の
 をばしつらハ人道乃大業也四民ともん
 はふふやとされよハ世々くつひて其家
 業とよくつしむれハ各其まこと申すは士
 ハ君つうて身とくろみと私をくして
 後をつしむハ世々のまれの祿の求め
 として其中にあり農工商ハ家の上と
 よくはとちつしむといつらるまけハ財を

得くを業ハ世に古語ハ人生ハつとありあり
 はしむハ則と申すはつとありあり
 天の道いふとてやまハ一日ハ周くまはめ
 らふ人乃勤ハ天道をのりまはちて
 ちり君子ハつとたてて守地の道ハ
 まつちてつと守人も亦これハつと
 子て教もてまつちてまハ勤ハ是
 人乃教ハ地の道と則と申す也
 古語ハはちハ多しつら情ハまとい

にらんとりつりつりいけしけれハ多しり
らと情ありつりつりいけしけれハ多しり
二つそをそり四氏もに勤と情と信と
しもつとるるは是道を終へてまかり且
又多しと信と信のつり道るは是亦人
身のそ愛也其とよは儉物をそりげ三徳
をそり家とそりつり

儉物二義あり儉物乃二字はつてまかり
とことよびたひらきんてけりつり

一よハ身のけいといはけりまかりてけり
あつたけい過すれ一よハ財と用はる
けりまかりて身のそりいをそりつり
かく益のそり財といはつりつり
けいといはけりまかりて身のそりい
てまかり財とみりつりつり
のてまかりは二と儉物といはつり
まかりてけりまかりてつり
まかりつりつりつりつり

人も財とみまらに用て候物ありされは財つ
 き家と申すくちりて父母と申すい人
 やとこし禮義と申す職分と申すい事
 あり以後の人乃財と申すなりて人れま
 ひとなるをいふ家と申するも是は
 己の身の侍者とりまくる也若徳あり
 財と申すて人よけこはるは吝嗇ちんさく也
 云志りたる也志りたる仁義の道よりい
 てある也思ひたる人の候物と吝嗇と乃

まらんと志すは候物をも吝嗇ありて
 ありまらぬ又吝嗇ありて人つは候物あり
 申すいあやまる人あり二方なり非也い
 聖賢いづれも候物ありさるいなは是若徳
 たり候物ありは俗人そは俗人のそは
 あり人れつとも候物一は俗人のそは
 あり人れつとも候物いれとされも
 けく鄙細ひびさいありは候物あり人よ對して
 寛恕くわんじゆありて

家法ぬゆの道とてうゝるひて候幼幼約つと
 ねらりて財をみくらにはい申財とてさる家
 人よかりて其利息多く出くまら家とも
 志くわらて入らう中さるい家人と中さる
 事くく器物とともそのまへ人よほさる
 るゆさる人の財とて返さる人の物と
 けいてほくのりとてうゝるゆと人とも
 まはたかなる悪ゆとてまはらゆとて早くいま
 しめはくしとて

母とて事示若ゆ也慈とはあつゆ也堪慈
 するは云母の二事あり一よはまらるをさる
 ゆゆとてさるえて念ゆは又一よはいつのゆ
 このじおゆとてえてしきゆは是念慈
 との二とてゆゆたり念ゆ志のよは人の
 志とて吾るゆよりまはさるてさるゆたり
 念ハまらるゆ私し人を好くまはさるゆの
 本也つらとてまみされていつるゆゆ事
 道理よくまらとていつる何先物とていつる

いづる何物にの必あやまる是のころ然るの
一乃の立たりも一いふにそりまひさる事
ありともあつたにいふは然あつたといふは
ききいふ公乃内ういふとけすもことな
出さしていふやを存をよくらまてころ
えぬまへ大からあやまりをいふをさる
ゆりの酒食好色をたしむるをいふをよら
ひくすたこのりる耳目は神の欲財愛器
物乃欲皆ころえてはしむるにむさあ

さる也念と慾との二とあつたえされの義理
うそじまを致れし病發生し財とはい
やし耻辱ととり命と失ふ其害大也元
身の向さつた念慾はころえらるよるお
ころ志りの間慾ところえはて身をま
とるれい父母とと終へしむ不孝是より大
なるいれし志りく堪忍とれいけりいを
くして喜あり古人は詩人も怒過事堪
喜といふ堪忍ととあつたはありと

いふ意也志の一場忠せされハ莫大乃禍也
程子も貪慾と申すと忠ハさうと使見有
徳無徳ととり

富貴乃人の其らうに治いておろく人をめく
見脚く一人生の樂ハ人乃苦悩救いて
人と樂一申ひつりふあり多災窮あて人を
脚くららうとてと苦悩とる志したあ
ハ其切あて人よ言とすも死無悩やめ
させ人の害とのそれた人乃ををわうくは

必財と用いともむりる申餘財ありハ
吾身のけい念とせりて人乃窮難と救ふ
一財と申ひつり程子の財とわらて
ハ苦悩終つるやちるさうととり方も極ふ
あうり財の多うれとわらて人を救ふか
不仁の人かり苦悩終つるさうと
道よ志あてん人のつひよ仁とみくをたむらて
毎日人ハ利益あつるやちるをさる人ハ苦悩
終ハ必財と用いするの多少ふようは

人乃難儀とてよく其功大なり財と多く
はりやとて益ありとて人に功あり人乃財と
ありは功とて益ありとて人に功あり人乃財と
上の王公より下のを以てして人をとて人乃財と
はりやとて益ありとて人に功あり人乃財と
て多ははりやとて益ありとて人に功あり人乃財と
多ははりやとて益ありとて人に功あり人乃財と
ありやとて益ありとて人に功あり人乃財と
ありやとて益ありとて人に功あり人乃財と
ありやとて益ありとて人に功あり人乃財と

よりあり物のごとく石人の足とてその物に
ありやとて益ありとて人に功あり人乃財と
ありやとて益ありとて人に功あり人乃財と
ありやとて益ありとて人に功あり人乃財と
ありやとて益ありとて人に功あり人乃財と
ありやとて益ありとて人に功あり人乃財と
ありやとて益ありとて人に功あり人乃財と
ありやとて益ありとて人に功あり人乃財と
ありやとて益ありとて人に功あり人乃財と
ありやとて益ありとて人に功あり人乃財と
ありやとて益ありとて人に功あり人乃財と

切集訓

〇

を樂とん志ううされハ大富貴とて得てもうい
わしと云是はくふ小人のちり其志じけ
ぬい中じりく教の中き樂は志く酒
食名慾と慾より人の必財つこと貧
窮よ苦し人を好むと恥辱とよりて名
を失ひえ氣つり病生して命をうじりま
いんやりさついとちり富貴はうくま
う好むしんを樂とすくま道と好む
人を好む分とやまん理よきうまかめ

樂は世の中は何うあふくまやあうれの中さ
只是をひく樂とすくまと好む人こと
くまは樂とてはくまはくま世俗の樂と
福くハ大富貴を得たりくも後よ不幸な
人といふ一富貴の人のくまはくま身は欲
をけしとけしとけしにきん多困なる者
欲あうれとわくまを樂しむく耳目
口腹の樂とけしとけしとけしとけしと
て樂は失ひくまをけしとけしとけしと

の人の心も財をけりて困窮の
うまへのうけりていんや秋風は
とれいふはけりて財祿と官位を
と生し身をそと敷りて命と
うい是より大からいなり

いとはわの何の月花と冬く
水公のそと園よあそひ詩
上はかふふこのあ道よ
かなる君子の樂也古人の
教の由よ自樂地

ありといつるの聖人の道
の教れぬよ世俗の樂
を好みいふて身の禍かな
なり世の人の心は
のむいふなり

丸人とある事すいふりて
てみよとわの無くも
まうと其と私のれい人
を好むいふて善人と
悪人とを好むいふて
善人と悪人とを好むいふ

一は其人の若愚と云ふべし君子に友と
 して人をも然しつゝ人とはならず其人をを
 らふも一りの公にうまつゝををりて
 わさ人をもをてたてて迎つたれ其人
 ぬりてこまりぬ莫大の禍と云ふ和漢
 古今考あり多し能く人と云ふゆへ
 人ををりていふたれはたかなる禍あり信じてし
 才智ありたれありて私とてけくけし
 てるをよよくつゝし人へ才徳をまわれり

人されい今の世にありし才ありて物りひ
 ありまひのをよありつゝもををりて
 と忠実とてうり世をてなく邪ありて人を
 このんで用ゆへ才ありた人も思ふべし
 世よありて久しき事にいづとつたれいりてよ
 さいやふあり要用よりよ辨否利ありて
 三居ありまひ性く人のをいよくまつらふ
 多くい其公につゝりてはくはしりありた
 りり多し候しつゝりて人ををりてい必

福とやうな家と中々のぬい家とやうなと
 ような家も同様にぬい家と大からぬい
 家はぬい家と
 友とやうな人いぬい家とやうな智ありてゆつあき
 をきしぬいとすむらぬ直ちなりぬい
 人ぬい家とやうな友とすむらぬ家なりぬい
 ぬい家とやうなゆつあきぬい家とやうな益あり
 ぬい家とやうな年ぬい家とやうな老のぬい家とやうなゆつあき
 ぬい家とやうなぬい家とやうな友とすむらぬ人ぬい家とやうな

やとぬい家とやうな人ぬい家のぬい家とやうなぬい家とやうな
 とやうなぬい家とやうなぬい家のぬい家とやうなぬい家とやうな
 ぬい家をぬい家と親の命とやうなぬい家と
 淫樂博奕をこのぬい家とやうなぬい家とやうなぬい家と
 ぬい家の業とやうなぬい家とやうなぬい家とやうなぬい家と
 頼の人とやうな年ぬい家とやうな子ぬい家とやうな親の人とやうな
 もぬい家とやうなぬい家とやうなぬい家とやうなぬい家と
 ぬい家とやうなぬい家とやうなぬい家とやうなぬい家と
 ぬい家とやうなぬい家とやうなぬい家とやうなぬい家と

吾皇このとき御返たまふもの様なるに御返の
 かり皇人の行乃牙一ればあそ七行乃神也
 吾皇このひるのくにたきのこも無とまふ
 るゆいあも真のあくすく一皇皇返ぬも無と
 まく一幸後ある也ゆい台と志れも一眞に
 この事御して行いと無く志れも一眞にま
 り候てはつらふこととつらふ事（たのま）く自款
 くは吾皇好も御返たまふもの事眞なる事
 と云自款くをたまふらて好無の二りま眞

あて候たつる人一皇牙一のち候たり
 九好じまたまふもとらやあふり一と
 のもいふとこのち相づきまをのくをと
 したるものもあたまにこのちたはひな
 かりて二天姓のあしすていあたまもはく
 そみあまし其ひらもとあたまもやあ
 したるものもいしてなやぬひく一古
 返りたるものも一真覺るたれあや
 するものも千里と

官禄の我より下なる人とてけり身をやとせし
樂しむと上なる人なうやせしむは友縁の
留まると留まらぬといふ天命あて生れ付るを
あつとせしむと上なる才徳の我より上なる人を見
てこれとせしむればと上なる才徳も生れ付る
とも若くは上なる才徳あつとせしむて得る
道理あり人の性本善といふ事同じか
りかたしと上なる道とせしむれば
人とせしむといふて此の世とせしむる人とせしむる

より物とせしむといふなり若くは人を知り
知自^レ知^ル謂^フ之^ヲ明^クといふなり知^ルは
人の心といふて此の世とせしむる人とせしむる
きま^チせしむるなり人の心といふて此の世とせしむる
なりとせしむるなりとせしむるなりとせしむるなり
るやけり身といふ私ありてその世といふ世とせしむる
ゆゑすなりなりとせしむるなりとせしむるなりとせしむる
子のありとせしむるなりとせしむるなりとせしむるなり
なりとせしむるなりとせしむるなりとせしむるなりとせしむる
なりとせしむるなりとせしむるなりとせしむるなりとせしむる

あつて世の人の世のついでにうらまひありて
るはあつて世のついでにうらまひありて
あつて世のついでにうらまひありて
あつて世のついでにうらまひありて
あつて世のついでにうらまひありて
あつて世のついでにうらまひありて
あつて世のついでにうらまひありて
あつて世のついでにうらまひありて
あつて世のついでにうらまひありて
あつて世のついでにうらまひありて

不善なつて世のついでにうらまひありて
あつて世のついでにうらまひありて
あつて世のついでにうらまひありて
あつて世のついでにうらまひありて
あつて世のついでにうらまひありて
あつて世のついでにうらまひありて
あつて世のついでにうらまひありて
あつて世のついでにうらまひありて
あつて世のついでにうらまひありて
あつて世のついでにうらまひありて

